

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200083		
法人名	有限会社 総合建設		
事業所名	グループホーム いしくら		
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字高田21-7		
自己評価作成日	平成29年7月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成29年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広いホールはA棟、B棟と事務所を中心に繋がっており入居者の行き来ができ交流もある。また、各棟に大型のテレビが2台設置されており、入居者が好きな番組を観ることが出来る。随所に背もたれの高いソファがあり入居者は、ゆっくりと過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは天井の天窓からの採光でリビングは明るく、大きめのソファ、テレビが2カ所に設置されている他、壁には、季節感を感じさせる切り絵や折り紙等が飾られ、個々の利用者の五感に配慮し居心地よく、落ち着いて生活できる環境が整備されている。ホーム内は、利用者と職員と一緒に掃除を行っており、綺麗で清潔感のある空間となっている。また、2ユニットが廊下で繋がっていて自由に行き来でき、交流が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や両ホールの壁に貼り職員みんなが理解して働けるようにしている。	開設からの理念であるが、ホールに掲示されいつでも目にすることができる。また、毎年機会があるごとに検討されている。理念である「和やかに・穏やかに」を意識した支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年一回近隣の中学生が職場体験で来所されたり、要望があれば高校生の就業体験など受け入れ交流を図っている。	中学生や高校生の職場体験の受け入れや歌声ボランティアの方々との交流が行われている他、地域の行事にも参加し交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議で近隣住民の方に参加してもらい、認知症や認知症の方への理解を深めて頂くように話し合いの機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの便りを運営推進会議の資料と一緒に掲げイベントなどの行事報告をしている。また、去年より利用者様の参加も取り入れている。	地域包括支援センター職員、地域の自治会長の参加を得て実施されていて、昨年より利用者の代表が参加している。会議では、ホームの活動報告や意見交換が行われている。家族の参加については、遠方に住んでいる方が多く参加されていない。	認知症などの勉強会を開催し、参加者と職員が共に学び、地域に福祉に関する情報を発信するなど、地域に根差したホームを目指してほしい。会議への家族の参加について、継続して取り組まれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡は取れるようにしている。不明な点はその都度問い合わせたりしている。	運営推進会議に参加していただき、町の取り組み等についての情報を提供してもらっている。制度等について不明な点等があった時に問い合わせたり、ホームの状況報告をするなど、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルをおいている。いつでも目を通せるようにしている。	マニュアルは整備されており、ヒヤリハットなどを通してリスクなどを共有している。諸事情により外部研修への参加やホーム内で研修する機会が少ない。	市町村と連携を図りながら、講師を招くなどし、身体拘束に関する研修を実施されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の資料などに目を通してもらい、理解したうえで働いてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料をいつでも目を通せるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には、説明、確認をしっかりと行っている。入所後も同様にいつでも相談等を受けられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時に家族にモニタリングの用紙を送付し要望や意見などを記入してもらっている。	面会に来る家族が限られているため、ケアプラン更新時にモニタリングの用紙を送り、記入してもらうようにしている。また、面会等で来られた家族については、意見等を伺うようにしている。	以前、家族に対しアンケートを実施していたが、最近は行われていないことから、前向きにアンケート調査の実施や行事等への参加の働きかけをし、家族の意見を伺う機会が増えることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に法人代理(経理)が参加して職員の意見等を聞き、反映するなどしている。	月1回のミーティングの時や年1回の代表者との面談の時に意見を話す機会がある。	ミーティング時の記録について、話し合いの過程が分かる議事録を作成することに期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在職員不足のため研修などに行けていないのが現状です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はあまり研修などは行けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や施設での訪問面接やご本人、ご家族のホーム見学など行い、納得されてから入れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「バックグラウンド」や「暮らしの情報」を申し込み時にご家族に記入してもらい参考にしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事や調理の手伝い、食器拭きや飾り作りの手伝い等個々の能力に応じて手伝ってもらっている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人やご家族に互いの様子や思いを伝えている。面会時にはゆっくりと時間とってもらえるようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族に電話を取り次いだり旧友が面会に来られた時などは居室でゆっくりと談話ができるよう支援しています。	面会に制限は特になく、いつでも受け入れている。兄弟に電話したい等の要望がある時には、連絡するなど関係が途切れない支援をしている。農家だった利用者に農作業ができる環境を整え、また馴染みの理容室を利用するなど、一人ひとりの生活習慣を把握し継続できるよう支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限り入居者が孤立せず、関係が円滑になるよう食事の席やソファの座る位置など工夫している。また、他者との関りが苦手な入居者に関しては職員が側に座り会話をし支援しています。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近はまだ無いが、退居後家族より相談を受ける事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの情報シートや、ご本人の話をきき、なるべくご本人の過ごしやすいようにしている。	スタッフが忙しい時には、買物等の希望があれば可能な限り対応している。また、畑で野菜を作りながら収穫を楽しむ機会を設けている。うがいや裁縫など、細かく個々の習慣や趣味などを捉え継続できるようにしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面談や情報などで共有している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の様子や記録、申し送りなどで現状把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の願い、要望などを介護計画に反映させている。	遠方に住んでいる家族が多いことから、モニタリング票を送り、意見等を書いてもらい、ケアプラン作成に活かされている。定期的に行われるカンファレンスで課題を洗い出し、見直しが行われケアマネが作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファレンス時に変化や様子について話し合い、今後のケアに活かせるようにしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問など増やせるように努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診察、往診が出来るように支援していく。かかりつけの薬局もある。	職員が付き添い、かかりつけ医を受診して何か変化があった時には、家族に連絡し情報を共有している。また、協力医の往診もあり、医療の支援体制は整備されている。かかりつけ薬局との連携も図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との連携はないが、かかりつけ医と密な連絡が取れるように努めている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には本人の情報を医療機関に提出し、早期退院に向けて面会したり情報交換や相談などを行い、退院後の受け入れもやっている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に説明している。	利用契約時に重度化した時の対応や看取りについて説明している。身体状況に変化が見られた時には、家族とかかりつけ医に相談しながら可能な限り対応している。実際に看取ったケースがある。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し全員が把握できるように努めている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもとで年二回の避難訓練を夜間、日中の想定で行っている。また近隣住民にも協力をお願いしている。	年2回、消防署の協力を得て、日中と夜間想定で避難訓練を実施している。近くに消防署のOBの方がおり、協力してもらっている。食料品備蓄、発電機が整備されている。毎月消火栓などの機器点検を行っており、連絡網の伝達訓練も実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に配慮するようにしている。	排泄や入浴支援について、プライバシーに配慮した取り組みが行われており、可能な限り同性介護に努めている。また、排泄等での声掛けは耳元で話しかけたり、離れた場所で声掛けをするようにしている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いが伝えやすく普段の生活でも意思決定できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の入院時には本人の情報を医療機関に提出し、早期退院に向けて面会したり情報交換や相談など行い、退院後の受け入れも行っている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人の意志を優先している。自己決定が難し利用者に関しては職員と一緒に考えている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や後方付けを行っている。	皮むきなどの食事の準備や茶わん拭きを手伝ってもらっている。テーブルの席についても、楽しく食事ができるよう配慮している。また、寿司屋さんに出張してもらい、目の前で握った寿司を食べてもらうなど、楽しんでもらうよう工夫している。季節の行事食も提供している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの食事量、水分量を把握している。安全を考え調理方法や食事形態も工夫して提供するようになっている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日声掛け、介助を行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを使用し排泄パターンを把握してなるべくトイレでの排泄が出来るようにしていく。	排泄チェックシートを活用し、排泄パターンを把握することで、尿取りパットを活用しながら極力おむつを使わなくて済むよう支援している。紙おむつから綿の下着に移行した利用者がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量の調節、散歩等軽運動を行ったり、医師へ相談するなどしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	それぞれに合わせた入浴支援を行っている。	希望する時間に入浴できるよう配慮している。毎日入っている利用者もいて、現在は見守りを必要としている利用者はいない。入浴時間に合わせ、バイタルチェックを行い健康状態の把握に努めている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活パターンを重視した支援を行っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報はファイルして全員が把握できるようにしている。変更時は申し送り等で全員が把握できるようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の話を聞いたりして情報を集め、本人の状態などをみて軽作業、散歩など行っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期は出来るだけ外出(買い物、ドライブ等)して、気分転換できるようにしている。	可能な限り、利用者の希望に沿えるよう通院時に買物をしたり、天気がいい時には近くを散歩している。花見や紅葉狩りでは、レンタカーを借りて出かけている。	外出できない利用者があることから、外出する機会が十分とは言えない。支援方法を工夫しながら外出の機会が増えるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理はホームにて行っている。外出時本人の希望があれば買い物など出来るようにしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙は本人の希望があれば取次いでいる。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のいい環境にするため光、温度、湿度等の調節を行っている。また季節ごとに飾り付けをしたり、写真を貼るなどしている。	共有スペースには、大型のソファやテレビが設置され、自分の時間を過ごせるよう配慮されている。利用者の皆さんで作った季節感を感じさせる切り絵や折り紙で作った傘が飾られている。天窓からの採光が室内を明るくしている。清潔感があり、空調については、エアコンや蓄熱暖房機、加湿器等が設置され、快適に過ごせるよう配慮されている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の性格、入居者同士の関係など把握し、楽しく過ごせるように支援している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく環境が変わらないように持ち込みは自由になっている。	今まで使っていた物を持ってきてもらい、利用開始前の生活環境と変わらない生活が送れるよう配慮している。部屋には家具のほか、家族の写真を飾っていたり、仏壇を持ってきている利用者がいる。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印をつけたり、文字を書いたりして支援している。		